

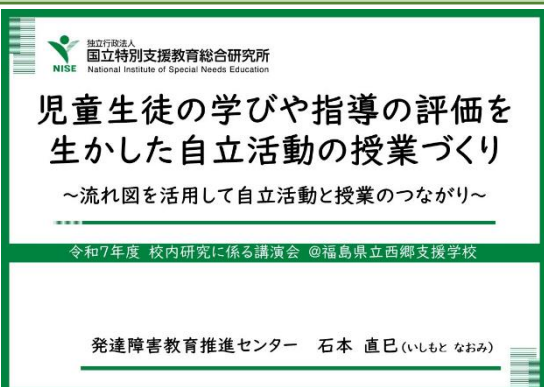
外部講師講演会を行いました

令和7年6月6日（金） 対面形式での開催

講師：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

発達障害教育推進センター 石本 直巳 氏

講演テーマ：「児童生徒の学びや指導の評価を生かした自立活動の授業づくり」



03 なぜ、流れ図なのか

①実態把握 ②指導目標 ③指導内容

◎実態把握のポイント

- 課題だけではなく、「よさ」や「強み」「長所」も書き出す
- 【〇年後をイメージして整理する段階】-④では、「このままだと…」という視点でその後、児童生徒が「どんな姿」になる可能性はあるのか、を整理する
- ※「どんな姿」とは？ 自信がなくなるとどうなるか、失敗経験の蓄積によりどんな様子が想像されるのか

03 なぜ、流れ図なのか

①実態把握 ②指導目標 ③指導内容

◎指導目標を設定する際の視点

- 困難さに対してこれまでどのような指導・支援が実施されてきたのかを振り返る（整理する）
- 「今、現在、どのようなことが課題になっているのか」を整理する
- 現在の課題を達成することが「将来、どのような姿につながっていくのか」という過去の指導・支援、現在の課題、将来の姿の連続性を持たせることが大切になる

03 なぜ、流れ図なのか

キャリア・スタディ(CS)
(集団での自立活動)

- ◆ 集団の活動を通じて、より自然な環境で、**相手の気持ちや状況を理解する力**を高める
- ◆ 仲間といろいろな活動を通じて、**周囲から評価される経験を積み、自分自身に自信**が持てる
- ◆ 人間関係を形成する上で**必要なスキル**(マナーやルール、コミュニケーション)をより必然性の高い状況で身に付ける

◎合言葉は、3つの「C」:①Communication ②Control ③Cooperation

始めに、自立活動の指導と各教科の指導の関係性について、自立活動の目標及び6区分27項目に当てはめながら、具体例を踏まえてご説明いただきました。その後、流れ図の必要性や流れ図の作成手順について、①実態把握 ②指導目標 ③指導内容の3つのプロセスに沿って、重要となる視点を提示していただきながらご教示いただきました。

また、キャリア・スタディ(CS)(集団での自立活動)の重要性についても、授業実践例を通して理解を深めることができました。

本講演を受けて、自立活動の指導目標の導き方に対する理解を高めることができました。普段の自立活動の授業づくりを今一度振り返り、児童生徒の学びや指導の評価を生かした自立活動の授業づくりについて、研究推進していきたいと思えます。

